

## 誰もが安心して暮らし、 活躍できる鹿児島県を目指して

明けておめでとうございます。

県民の皆さまには、日頃から、県政の推進に多大な御理解・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

現在、我が国は、本格的な人口減少や少子高齢化の進行、輸入物価や人件費の上昇等を背景とした物価の高騰、デジタル化の進展、カーボンニュートラルの要請など、社会経済情勢が大きく変化しております。

県としては、これらに的確に対応しつつ、本県の基幹産業である農林水産業、観光関連産業など鹿児島県の「稼ぐ力」の向上、地域や各種産業を支える人材育成、結婚・妊娠・出産・子育てしやすい環境の整備や高齢者が健やかで生きがいを持てる社会の形成など、「かごしま未来創造ビジョン」に掲げた各般の施策に積極的に取り組むことにより、「誰もが安心して暮らし、活躍できる鹿児島県」を目指してまいります。

昨年は、6月以降、トカラ列島近海で地震が断続的に観測され、6月には新燃岳が7年ぶりに噴火しました。また、8月には大雨及び台風第12号により、県内各地で断水や停電、住宅の浸水被害、道路等の公共土木施設や農作物等への被害が発生しました。頻発する自然災害から県民の生命・財産を守るために、防災・減災対策に取り組む、災害に強い強靱な県土づくりを進めてまいります。また、これらの災害の影響などによって落ち込んだ旅行需要を喚起するため、来月まで、県内での宿泊を伴う旅行に対し割引助成を行う「南の宝箱 鹿児島 冬のあったか宿泊割キャンペーン」を実施しておりますので、県内外の多くの方々に利用していただきたいと考えております。

一方で、明るい話題もありました。クルーズ船の本県への寄港数につきましては、平成17年に国が全国的に統計を取り始めて以降、過去最高となりました。今後とも、クルーズ船の誘致に努め、寄港の継続及び新規の寄港増加、寄港地ツアーの広域化に取り組んでまいります。

農林水産業につきましては、令和5年の農業産出額が5,438億円、令和6年度の輸出額が471億円と、過去最高を記録し、特にお茶については、令和6年産の荒茶生産量において、本県が初めて全国一位になりました。昨年8月には、令和7年産一番茶の荒茶生産量においても、本県が初の全国一位となりました。海外での抹茶需要が高まっていることから、抹茶やその原料となるてん茶の加工施設の整備など、今後とも販路開拓や付加価値の向上に向けて、取り組んでまいりたいと考えております。

本県で初めて開催された「第27回全国農業担い手サミットinかごしま」においては、三笠宮寛仁親王妃信子殿下の御臨席を仰ぎ、県内外から多くの皆さまに御参加いただき、盛況のうちに大会を終えることができました。今後とも、経営感覚に優れた農業者の確保・育成に努めてまいります。

9月には、大阪・関西万博において、本県の三つの世界遺産の紹介や伝統的工芸品、食文化の体験など、多くの来場者に「南の宝箱 鹿児島」の魅力を感じていただきました。今後とも、さまざまな機会を捉え、本県の魅力の発信や観光誘客に取り組んでまいります。

10月には、東京食肉市場まつりにおいて、「和牛」といえば、鹿児島県産。」をキャッチコピーにPRを行い、来場者や市場関係者から鹿児島県黒牛をはじめとする県産和牛の品質やおいしさに高い評価を頂きました。引き続き、「和牛日本一鹿児島」の認知度向上や県産和牛の販路拡大に努めてまいります。

また、同月に、米国の相互関税措置など海外市場が不確実性を増す中、県産品の仕向先の多角化を図るため、サウジアラビア及びアラブ首長国連邦（ドバイ）を訪問し、県産食材の輸出の可能性等について意見交換やPRを行いました。今回の渡航で得た人脈や知見などを生かして、中東市場への県産品の販路開拓に取り組んでまいります。

最近の国内情勢につきましては、昨年、高市内閣が発足し、「『強い経済』を実現する総合経済対策」が決定されました。県としては、これまでも国の施策とも連携して、物価高騰対策をはじめとする各種の事業を効果的に展開し、県内経済の早期回復に努めてきております。引き続き、国の経済対策の内容等を踏まえ、速やかに必要な対応を講じてまいりたいと考えております。

今後とも、「県民の皆さまと一緒に鹿児島県の今と未来をつくる」ということを基本として、「誠実に」「着実に」県政の推進に全力を挙げて取り組んでまいりますので、県民の皆さまの一層の御理解・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、県民の皆さまにとりまして、新しい年が輝かしく幸多い一年でありますよう、祈念申し上げます。



令和八年 元旦

鹿児島県知事

塩田 康一